

# 平成28年度スジアオノリ養殖概況

牧野賢治

平成27、28年度の月毎の徳島県漁連共販数量の推移と対前年比を図1に、年度毎の共販数量と平均単価の推移を図2に示した。

10月上旬から種場が解禁となったが、種場に生息するスジアオノリの生育不良により、例年より約半月遅れの種付け作業となった。10月下旬から本養殖が開始され、11月下旬から収穫が始まった。11月30日頃から吉野川養殖最上流漁場でスジアオノリが生育不良になった。以降、養殖最上流漁場では、漁期中、例年通りの収穫をすることがなかった。12月12日、吉野川下流南岸の養殖漁場以外からも生育不良の情報が入り、12月22日になると、吉野川下流北岸の養殖漁場でも例年どおりの収穫ができなくなった。生育不良の原因については、現場で生育不良になったスジアオノリを観察した結果、淡水が藻体にダメージを与えたものと推測した。1月下旬からスジアオノリが伸び始め、3月下旬まで収穫していた。

平成28年度の月別の共販実績は、前年度が過去10年で最低の凶作であったので、前年度との比較検討はできないが、今年度は、例年ほとんどの養殖業者が養殖終了となる2月に11トンの収穫があった(図1)。共販の最終結果は数量63.5トン、金額10.7億円、平均単価16,780円だった(図2)。

水産研究課は、漁業者が実施する人工採苗を支援するため、人工採苗用の母藻種網を生産し、10月14日に里浦、長原、川内、応神町、徳島市第一、渭東及び徳島市辰巳の各漁協へ配布した。また、春漁用として、人工採苗用の母藻を生産し、3月22日に川内、徳島市辰巳及び渭東の各漁協へ配布した。

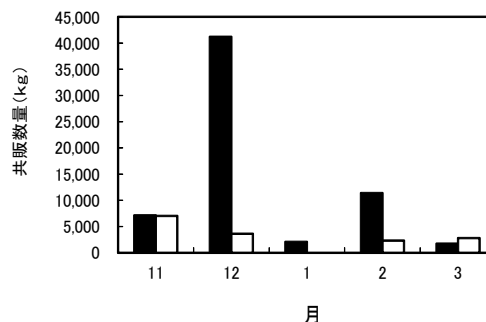


図1. 平成27, 28年度における共販数量の経月変化。  
■:平成28年度；□:平成27年度；○:対前年比

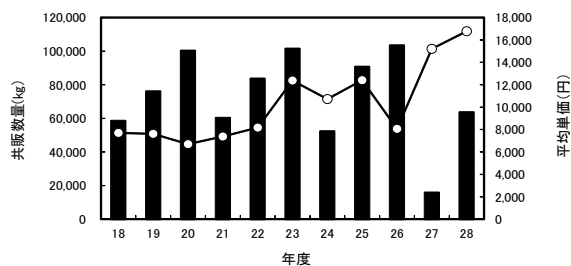


図2. 年度別共販数量と平均単価の推移。  
■:共販数量；○:共販単価